

掲載日	新聞名	内 容	中医協のあり方に関する論点
4月16日	東京新聞 (社説)	<p>「国民への背信行為だ」</p> <p>病院・診療所で受ける医療やもらう薬剤の値段である診療報酬の中医協での改定論議は、医療費を払う健康保険組合連合会など一号側と医療を提供する日本医師会や日本歯科医師会(日歯)など二号側との間で行われてきた。</p> <p>その激しい攻防戦からは、診療報酬が一見、公明正大に決められているように見えるが、そうばかりではなかったようだ。</p> <p>東京地検の調べでは、現職と元職の一号側委員の二人が日歯役員から中医協審議で日歯に有利な発言をするよう依頼されてわいろを受け取った疑いが持たれている。</p> <p>金銭や接待で診療報酬改定がゆがめられたとしたら由々しきことだ。</p> <p>中医協の論議は公開の場で行われるが、不正があったとしても、なかなか見抜けないのは議論の内容が極めて専門的であり、理解するのが容易ではないからだ。八人いる一号側委員の中でも発言する委員は限られているのが実情である。不正がまかり通った背景にはこうした事情もあるようだ。医療制度に精通した委員が選ばれるような仕組みに改めなければならない。</p> <p>高齢者を中心に医療費が増大し、その抑制が大きな課題になっている中で、国民の医療への関心が急速に高まっている。その基本である診療報酬を議論する中医協を専門家だけの場としないために、厚生労働省は中医協委員に患者代表を加える必要がある。議論の中身や論点、意味などについてホームページなどを通じ分かりやすく国民に説明すべきだ。それによって国民の関心、決定過程への監視も強まるだろう。</p> <p>中医協で全国一律に診療報酬を決めることもこの際、見直す必要がある。政府は昨年三月に閣議決定した医療制度改革の「基本方針」の中で、医療保険を運営する保険者を都道府県単位を軸に再編・統合する案を打ち出した。</p> <p>この狙いの一つは医療費の地域格差を考慮して将来、都道府県単位に診療報酬を決めることに道を開くことにある。これによって診療報酬をお互いに比較して不必要な医療費削減に努めることが期待でき、不正の余地が少なくなるだろう。その実現について真剣に議論すべきだ。</p> <p>日歯は中医協委員のほかに、政界にも有利な改定を働きかけた疑いが出ている。歪んだ医療をただすためにも全容の解明を求めたい。</p>	<p>医療制度に精通した委員が選ばれるべき。</p> <p>中医協委員に患者代表を加えるべき</p> <p>中医協の議論をホームページで説明すべき。</p> <p>都道府県単位で診療報酬を決めることも議論すべき。</p>

掲載日	新聞名	内 容	中医協のあり方に関する論点
4月17日	朝日新聞 (社説)	<p>「政策を売買するな」</p> <p>医療費を減らそうと主張しながら、医療費を増やせという団体から、こっそり金品をもらっていた。中央社会保険医療協議会(中医協)の委員が日本歯科医師会からワイロをもらったとされる汚職事件は、医療保険の加入者に対する重大な裏切りである。</p> <p>汚職の舞台となった中医協は、厚生労働相の諮問を受けて診療報酬を審議する。報酬を支払う側、診療する側、学識経験者の3者で構成されている。</p> <p>収賄の疑いで逮捕された下村健容疑者は社会保険庁長官も務めた旧厚生官僚だった。その人物が大企業の社員で作る健保組合の連合会に天下り、支払う側の代表となった。医師会などと議論や交渉をするには専門的な知識と政治力が必要とされたからである。</p> <p>利害が対立する問題を審議会の議論に託すやり方は、どの官庁にも見られるが、このシステムに捜査のメスが入るのは異例だ。</p> <p>今回の事件は日本歯科医師会の政治団体である日本歯科医師連盟(日歯連)の献金隠しの疑惑を捜査する中で浮上した。日歯連の最大目標は、中医協で審議される診療報酬の有利な改定にある。東京地検特捜部はいきなり疑惑の本丸に着手したといえるだろう。</p> <p>診療報酬の改定は中医協だけでは決められない。全体の大枠の決定には自民党の族議員や与党の有力者もかかわる。日歯連が少なからぬ政治家に不明朗なやり方で献金をばらまいていたことは、献金隠しの捜査ですでに明らかだ。</p> <p>今回の汚職は日本の医療費の根幹にかかわる事件である。特捜部は政治家のかかわりも含めて徹底的に捜査してもらいたい。国会も年金改革の論議とは別に、汚職事件について集中審議をして医療費決定の疑惑を解明すべきだ。</p> <p>事件を繰り返さないためには、安易に官僚OBに頼るのではなく、診療報酬を支払う側が自前で医療保険の専門家を育てていくことが必要だ。そうすれば会社員や自営業者ら保険料を支払っている人たちの身になって議論をするはずだ。</p> <p>とりわけ、労働者の利益を守る団体でありながら副会長が収賄で逮捕された連合には、専門家を育ててこなかったことも含めて反省を求めたい。</p> <p>歯科医師会にも厳しく注文したい。</p> <p>入会すれば自動的に政治団体の日歯連の会員になるという仕組みで、医師会を上回る巨額の政治資金を集めてきた。それが、金で政策を買うという体質を生んだのではないか。</p> <p>この仕組みに異議を申し立てる訴訟が相次ぎ、退会の自由を認める規約に変わったが、実態はほとんど変わっていない。一人ひとりの歯科医が声をあげ、中から改革を進めてもらいたい。</p> <p>中医協のあり方も改めるべきだ。委員に患者や看護師の代表を迎えるなどして、幅広い観点で論議できるようにすることが必要だろう。</p>	委員に患者や看護師の代表を迎えるなどして、幅広い観点で論議できるようにすべき。

掲載日	新聞名	内 容	中医協のあり方に関する論点
4月21日	毎日新聞 (社説)	<p>「中医協汚職 幕引きすれば信頼を失う」</p> <p>中央社会保険医療協議会(中医協)をめぐる汚職事件に関する衆参両院の厚生労働委員会で集中審議が20日行われた。汚職事件が起こった背景や再発防止のための中医協改革のあり方、さらには日本歯科医師連盟(日歯連)の政界工作などに議論が広がったが、審議は疑惑の全容解明とは程遠い内容に終わった。国会で十分な時間をかけて徹底審議を行うことを求めたい。中医協汚職事件によって浮かび上がった問題は二つある。ひとつは診療報酬を決める中医協制度のあり方であり、もうひとつは診療報酬制度と政治の関係である。</p> <p>中医協のあり方について坂口力厚生労働相は「(事件を)改革の時期ととらえたい」と答弁したが、これまでにさまざまな指摘があったことも事実であり、もっと早く着手すべきであった。</p> <p>改革をすすめる前提として事実の全容解明がある。まず、この日参考人として出席しなかった日本歯科医師会(日歯)の代表者を国会に招致し事件の事実確認をたすべきだ、と指摘したい。診療報酬の支払い側代表である健康保険組合連合会と連合の委員に対し、わいろを贈った容疑で逮捕者を出した日歯から贈賄事件の経緯や実態、そして政治献金の流れなどについて詳細な説明をしてもらわなければならない。</p> <p>与党には集中審議を1日で終わりにして事件解明の幕引きを図ろうという声もあるが、とんでもないことだ。診療報酬が汚職事件によってゆがめられたのではないか、その事実を解明し患者や国民に対して説明する責任が政府と国会にはある。医療制度の根幹にかかわる重大な問題という認識があるならば、1日限りの集中審議で一件落着にはできないはずだ。疑惑を解明し再発防止の手立てを講ずる作業は、これから始まるといっても過言ではない。</p> <p>診療報酬の決め方や中医協の改革については、これまで手付かずだった。原則2年ごとに改定される診療報酬をめぐる、中医協では支払い側と診療側の意見が対立、最終的には政治決着が図られてきた。中医協の議論は公開されているが、政治の場での決着がどのように影響しているのか、は全く分からない。</p> <p>30兆円もの国民医療費の配分を決める最終段階で、政治家が関与する仕組みができあがり、それが日歯連による巨額で不透明な政治献金の土壌となってきた。これが事件の本質ではないのか。</p> <p>だとすれば、診療報酬の決定に際し不当な政治介入をさせない、制度の透明性が確保できる仕組みを早急に作る必要がある。</p> <p>日歯連の政界工作の解明については東京地検の捜査を待たねばならない。しかし、それまで国会が何もしていないでいいということではない。国会審議で日歯連幹部らから政治献金の実態を把握し、政界工作について政治家自らが解明に乗り出すべきである。そうでなければ、失われた診療報酬制度の信頼回復はできない。</p>	<p>中医協の議論は公開だが、政治の場での決着がどのように影響しているのか全く分からない。</p> <p>診療報酬の決定に際し不当な政治介入をさせない、制度の透明性が確保できる仕組みを早急に作る必要がある。</p>